

SGH 企画・キャリア教育事業「未来創造II」職業別ガイダンス

日時:平成 26 年 10 月 16 日(木) 6・7 限(14:15~16:05) 対象:1年生

関高生が関心を持つ様々な職種の中から、第一線で活躍をされている8名の方々を講師としてお招きし、自分の進路希望に合わせて希望する2講座を受講しました。

1 建築士 (株)SYNC 山田茂宏先生

■ 講義の内容

山田先生は一級建築士の資格を取得し28歳で独立。動機は「建もの探訪」というテレビ番組を見て、格好いい家に住みたいと思うところからでした。例えば、光を通すための窓になぜレースのカーテンのをつけるのか、という例から一つのことにこだわりを持ちいろいろな角度から必要性を考えて家づくりをされているということでした。



■ 生徒の感想

- ・僕にとって生活の家は、完全に自分の空間にいられるというのが好きなので、カーテンとかも閉めてしまうけど、それによって残念なこともあることが分かりました。家はそれを建築する人が住む人に、よりよい生活を送ってほしいという願いのもとにやっているんだと思いました。
- ・楽しむだけでなくプライバシーを守れるような窓の付け方を考えるなど、住む人の心理を考えているのがすごいと思った。
- ・House(物)ではなくHome(人が住む)を作りたいと言われ、**私も自分こだわりをしっかり持てる職にきたいと思いました。**

■ 講師の先生から

ひよとしてできるんじゃないか？という「勘違い」が新しい一步を踏み出すきっかけです。**どんどん勘違いをしてたくさん失敗を重ねることで人は成長するのです。**そして、**今おかれている自分の状況が最高だと思ふこと。そう思った瞬間からその人は輝き始めます。**

2 研究者 (株)資生堂 中西裕子先生

■ 講義の内容

アメリカで試作をしていた時、工場働く人の意思疎通を図ることや多言語での成分表記を作成することが大変だったことなど豊富な経験談を話していただきました。「化粧品会社」だからこの勉強をした人が就職する、ということではなく、化学、機械工学、薬学、医学、脳科学など様々な分野で経験を積んだ人たちが会社は成り立っているのだということをお話されました。



■ 生徒の感想

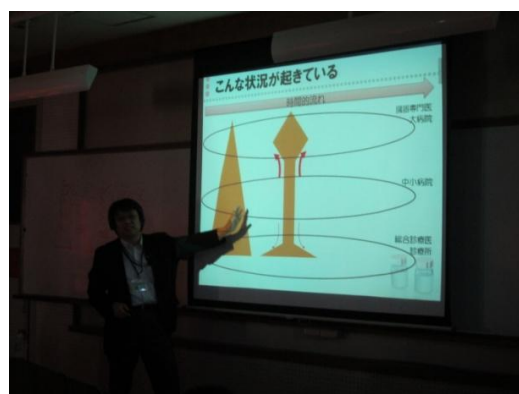
- ・世界で販売されていてそのために商品を作るときに凍らせてみたり、温めてみたり日光に当ててみたりといろいろ試しているなど一つの製品を作り上げるのにとっても苦勞していることが分かりました。また、商品を作りだすのに人の価値観まで研究しているのに驚きました。**仕事に対する熱意が伝わってきて働くっていいなと思いました。**
- ・女性ばかりの職場と思っていましたが、男性が7割を占めていることが意外でした。仕事が好きなの理由が、**自分が作った商品や努力が他の人やお客さんを喜ばせることが大切でとてもうれしいことなんだなと思いました。**

■ 講師の先生から

可能性が無限にあるキラキラした皆さんと同じ時間を過ごせたことは私にとっても有意義な時間になりました。当事者だと窮屈で永遠に続きそうに思える高校生活ですが、案外あっという間で**今の時間を大切に、今しかできない経験を十分に楽しんでください。**

3 医師 郡上市地域医療センター 後藤忠雄先生

中小病院の医師が減って専門医が増えていること、へき地医療の大切さ、大部分の健康問題に対応できる医者
の必要性など実際のデータをもとにイラストや写真、例を用いて分かりやすく説明をしていただきました。また、講義だけでなくグループで意見交換をさせたり、クイズ形式で質問したりするなど、生徒とのコミュニケーションが図られました。



■ 生徒の感想

- ・患者さんにとって**その人らしい人生を支えるために診療室の中だけではできない支援ができるような医者が求められていることを知りました。**
- ・総合病院のような大きな病院だけでなく、地域に基づいた医療を目指すべきだと思った。
- ・岐阜県の人口に対する医師の割合は全国で下から10番目で、その中でも中濃地域は医師不足ということで少し不安になりました。

■ 講師の先生から

大学に入ること、医師などの職業を得ることが目標であっても目的ではありませんよね。**自分が人生の目的とするものは何か。そんな視点も大切にしてください。**

4 企業経営者 野原電研(株) 野原謙太郎 先生

いずれは実家を継ぎたい、という夢を持ち、そのために大学ではアルバイトや留学といった社会経験を積み重ね、社会人時代には世界で仕事をする経験と人脈作りをされたということでした。『良い人生は良い出会いで決まる。1度きりの人生、日々楽しく達成感を持って生きよう！』という言葉が印象的で、自分がその時どう感じてどう考えたかをいうことを具体的に示してくださいました。



■ 生徒の感想

- ・「誠実」「努力」「継続」が3年間で大切で、この3年間で道が開けることがわかりました。3年間はひたすら努力しないと成長できない。**人と人との出会いを大切にしていきたい。**
- ・夢は見るものではなく叶えるものだという言葉がいいなと思いました。**夢と聞くと遠く叶わないもののように感じてしまうけど叶えるんだという気持ち大切だとわかりました。**
- ・今は具体的な夢がなく、結構焦るようなこともあったけれど、まずは漠然とした夢を持つことが大切だと知って少し安心した。**高校の3年間はすごく大切だと聞いて勉強は好きじゃないけれど、やっぱり今は頑張らないといけないと改めて思った。**

■ 講師の先生から

『夢』は見るものではなく、叶えるもの。そのための努力を惜しまず、頑張ってください。

5 弁護士 辻巻総合法律事務所 安江正基 先生

ご自身の学生時代の話からどのようにして弁護士になることができるか、また、弁護士と裁判官、検察官の違いについて話をしていただきました。また、弁護士の仕事について、実際に担当した刑事裁判を例に挙げてより具体的に説明をしていただきました。その中で、弁護士は勝てばいいわけではない。両者がその後もうまくやっていけるような道を探すことが必要である、など、弁護士としての心構えのようなことも話していただきました。



■ 生徒の感想

- ・弁護士と聞いて文系だとばかり思っていたけど、数学の証明とか道筋を立てて考えることが必要だと聞いてなるほどなと思いました。
- ・依頼人は弁護人をだますわけではないけれど、嘘をついていることが多いということを聞いて驚きました。**裁判が終われば終わりなのではなく、終わった後の被告人の生活を考えたりするのも仕事の一つであることを知りました。**また、もめてからばかりでなく争いが起こらないようにあらかじめ動いたりすることも知り新しいことが知られてよかったです。

■ 講師の先生から

今回のガイダンスであげられた職業以外にも、様々な職業があります。普段の生活で気になる職業を見つけたら、まずは情報を集めてみましょう。そして、**その職業に就くために現在すべきことを逆算して考えてみましょう**。皆さんがいつか希望する職業に就けるよう願っています。

6 企業経営者 (株)杉山製作所 島田亜由美 先生

ただ商品を作って売るというだけでなく買い手が求めるものを聞いてから商品開発をする。何をすれば人を幸せにできるか、作り手が楽しんで作れるか、という企業の経営理念のようなものを教えていただきました。また、自身の経営する会社が、バブル経済崩壊後仕事が3分の1に減ってしまい経営が難しくなったときに、社員とともに現状の課題や財産を見直して立てなおしたということを熱く語っていただきました。



■ 生徒の感想

- ・会社を成功させていくため、うまく経営していくためには自分がやりたいこと、やっていて楽しいことをしていくことが大切なんだと思った。
- ・社員の方々の高齢化をマイナス面にとらえればよくないけど、良い面にとらえれば熟練された技術があったりして**ピンチをチャンスに変えられることが分かりました**。
- ・これから必要なことは、**自分の考え思ふことをちゃんと伝えること**。相手に言われることに「はい」と答えるだけの「イエスマン」ではだめ。今、何のために何をしているのかを考えることが大事で、私も「イエスマン」だと思うので、これからは変わらなければいけないと思った。

■ 講師の先生から

どんな経験もすべて自分の力にして人として成長していただきたいと思います。

7 新聞社員 毎日新聞社中部本社広告部 岩崎ひかる 先生

私たちが知る新聞社とは違う話をいろいろとさせていただきました。例えば、毎日新聞では、社員2,500人のうち新聞記者1,000人だけで、新聞社の仕事は、広告やイベント、デザインなど様々な業務があることを例をあげて説明していただきました。また、単に「伝える」だけでなく情報を整理することも役割だということをお話していただきました。



■ 生徒の感想

- ・新聞社に勤める人にとって大切なことはきれいに文章を書いたりきれいな写真を撮ることではなく、コミュニケーションが取れることだと分かって、本当にそうだと思った。**どんな仕事でも人の話をうま**

く聞いて相手との関係をうまく保つことが成功の秘訣だと分かった。

- ・困っている人がいて日の目を見ることのないところに新聞社は眼を向けて、そういう人たちに希望を与えているという話に感動しました。

■ 講師の先生から

思っていること、考えていることを、会って話して伝えられることはとても大切なことだと思います。垣根を越えるコミュニケーション力と情報を精査する目を養うことは、グローバルリーダーへの第一歩です。「リアルの世界で発信できる人」を目指してこれからもがんばってください。

8 **大学職員** 立命館大学 熊谷秀之 先生

大学職員は、学生が成長するために仕事をするところであるという話をされました。例えば、留学をするための奨学金を企業から寄付していただくために企業を回る、海外から優秀な学生を集める、など学生のためにいいと思ったことをすぐにプロデュースしていくということでした。また、立命館大学は非常に大きな組織で様々な部署で多くの人が働いているということでした。



■ 生徒の感想

- ・講師の先生が「努力する子どもの姿を見るのが好きだからこの仕事に就いた。」という言葉聞いて感動しました。私も強い気持ちを持って進学などを考えられるようになりたいと思った。
- ・心に響きました。**相手に広報する時には、伝える相手、内容、どうやったら確実に伝わるかを考えることが大切だと思いました。**
- ・「すべては学生のために。」ということをととても大事にしていることが分かりました。また、最後に「一般企業に学部は関係ない。学生時代に何に熱中し取り組んだのかが問われる。」とおっしゃいました。**自分も早くやってみたいことを見つけ出せるようにしたいです。**